

# 七条中学校だより6月5号

京都市立七条中学校

令和8年6月4日

発行：校長 林 秀雄

## 「便利なものほど、使い方を考えよう」

これまでもスマートフォン・SNSについて学校だよりで考えてきました。みなさんは、TikTokなどのSNSを使っている人も多いかと思います。楽しい動画や面白い情報がたくさんあり、身近な存在になっていますね。さて、あるシンポジウムでこんな話がありました。TikTokの社長さんに対して、「あなたの娘さんはTikTokを使っていますか？」と質問した人がいました。すると、その社長さんはこう答えました。「自分の娘には使わせていません。」これを聞いた人は、「なるほど」と納得したそうです。

【この話から考えてほしいこと】

TikTokを作った人は、その魅力や良さを誰よりも知っています。それでも、自分の子どもには使わせていないのです。なぜでしょうか。例えば、次のようなことが考えられます。●楽しくてやめられなくなる ●長時間使い続けてしまう ●強い刺激に影響されやすい ●他人と比べて気持ちが落ち込むことがある、等。つまり、「便利で楽しいものでも、使い方を間違えると影響がある。」ということです。

【みなさんに伝えたいこと】

SNSやスマートフォンは、これからの社会に欠かせない大切な道具です。使うこと自体は、決して悪いことではありません。大切なのは、「どう使うか」です。例えば、●時間を決めて使う ●寝る前は控える ●必要な情報かどうか考える ●見た後の自分の気持ちに気づく、等。こうしたことを意識しながら、上手に付き合っていきましょう。これからの時代、AIやSNSはさらに身近になります。だからこそ、みなさんには「正しく使う力」を身につけてほしいと考えています。自分の時間と心を大切にしながら、賢く活用していきましょう。

【保護者の皆さまへ】

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

今回ご紹介したエピソードは、デジタル社会における子どもの育ちを考えるうえで示唆に富むものです。サービスの開発者自身が我が子への利用に慎重であるという事実は、SNSや動画配信サービスの「利便性」と「影響」の両面を私たち大人が冷静に捉える必要性を示しています。子どもたちは、魅力的で刺激の多いコンテンツに対して自制することが難しい場合があります。そのため、●利用時間のルールづくり ●使用場所（寝室に持ち込まない等）の工夫 ●家庭内での対話（何を見ているか、どう感じたか）。といった関わりが、非常に重要になります。

学校においても、ICT活用とともにメディアリテラシー教育を進めておりますが、家庭での関わりが子どもの健やかな成長に大きく影響します。「使わせるか・使わせないか」ではなく、「どのように使わせるか」この視点を学校と家庭で共有し、子どもたちを支えていければと考えております。

今後とも、ご理解とご協力をよろしく願いいたします。

## 6月の異名「水無月」と和菓子の由来

6月は旧暦で「水無月（みなづき）」と呼ばれます。一見すると「水が無い月」と書くため不思議に感じますが、これは「無」が“ない”という意味ではなく、「の」にあたる助詞として使われているためです。つまり「水無月」とは「水の月」という意味になります。旧暦の6月は、田に水を引き入れて稲を育てる大切な時期であり、まさに水と深いかかわりをもつ月でした。農業を中心とした昔の日本の暮らしの中で、水は命を支える重要な存在であり、そのことが名前にも表れているのです。また、この時期に食べられる和菓子にも「水無月」という名前があります。三角形のういろうの上小豆（あずき）がのった菓子で、6月30日の「夏越の祓（なごしのはらえ）」という行事で食べる習慣があります。この行事は、半年間のけがれを払い、残りの半年の無病息災を願う日本の伝統行事です。

この和菓子が生まれた背景には、平安時代の風習があります。当時、宮中では暑気（しょき）払いのために氷を食べる習慣がありました。しかし氷は大変貴重で庶民には手に入らなかったため、その代わりとして氷を模した三角の菓子が作られるようになりました。上にのせられた小豆は、悪いものを払う力があると信じられており、厄除（やくよ）けの意味が込められています。

このように、「水無月」という言葉には、自然とともに生きてきた日本人の知恵や願いが込められています。季節の言葉や行事、食べ物の由来に目を向けることで、私たちの文化への理解が深まります。日々の生活の中でも、こうした季節の移ろいを感じながら過ごしていきたいものです。